

## 【別紙2】

### 審査の結果の要旨

氏名 羽田（山田） 恵子

本研究はロコモ度テストを用いて、様々な属性のグループにおける移動機能の疫学を調べ、年齢・性別との関連を検討することを目的とし、地域および全国的な疫学研究を実施したことで、下記の結果を得ている。

1. 千葉県鴨川市にて、独立した地域在住者1469名において、介護につながりうる移動機能低下に対する年齢との関連を検討し、地域在住者では年齢に従って移動機能は低下することを示した。さらにこれを全国的な大規模調査への予備調査と位置づけた。
2. 同地域において、すでに移動機能が低下した介護保険認定者135名においても年齢が危険因子になるかを検討した。その結果、介護保険認定者のロコモ度テストの値は年齢との関連は認められなかったが、介護度の悪化とは相関した。よって介護保険認定者の移動機能は年齢によらず幅広く、様々な年齢的变化をたどる可能性が高いことを示した。
3. 歩行に他者の介助を必要としない独立した地域在住者の移動機能低下と年齢・性別の関連を全国的に調査し、8681名の参加者のロコモ度テストの性別・年代別参照値を示した。
4. 3.の調査において、ロコモ度テストの3つのテストの値は、それぞれテストによって特徴や違いはあったが、男女共に20代が最高で、30-40代から徐々に低下を始め、60代を越えると加速する傾向を示した。また、移動機能低下の年齢による変化は特に壮年期、40代から50代では男女差がある可能性があることを示した。さらに、客観的な身体テストと自己申告式の移動機能評価は深く関連することが知られているが、若年期から高齢期までの広い年齢を対象とした場合、身体テストの方がより鋭敏に移動機能低下を反映することを示唆した。

以上、本論文は 地域での要介護群と地域在住者の年齢と移動機能の関連を明らかにし、さらに地域での調査を予備調査として、全国調査を行うことで、独立した地域在住者の移動機能低下と年齢・性別の関連を明らかにした。本研究は今後介護につながる移動機能の疫学的な基礎調査として、同分野の発展に重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（医学）の学位請求論文として合格と認められる。